

**A 住宅地空き地及び路上**



①コマツヨイグサ



②スズメノヤリ



③スズメノカタビラ



④ムラサキケマン

**B 大岩堤周辺**



⑤キランソウ



⑥シラユキゲシ



⑦シャガ



⑧ニョイスミレ



⑨ムラサキサギゴケ



⑩ニリンソウ



⑪ジロボウエンゴサク

**H 重林寺北歩道沿い**



⑮ニガナ



⑯セイヨウアブラナ

**C 大岩堤 南西の林道**



⑫ハハコグサ



⑬クサイチゴ



⑭ハルジオン



⑮ミツバツチグリ



⑯ジシバリ

**D 公園下斜面**



⑰カラスノエンドウ



⑱ウシハコベ



⑲ワスレナグサ



⑳スイバ



㉑ハナニラ

**E 大岩子安神社周辺**



㉒スイセン



㉓タチツボスミレ



㉔ヒメオドリコソウ

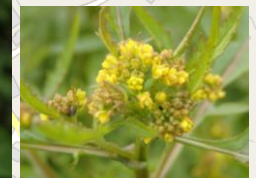


㉕マツバウンラン

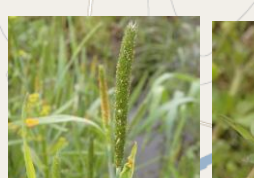
**F 時田あぜ道**



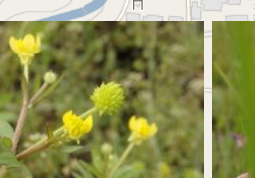
㉖シロツメクサ



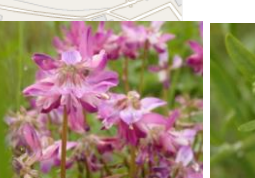
㉗イヌガラシ



㉘スズメノテッポウ



㉙キツネノボタン



㉚レンゲ (ゲンゲ)



㉛タガラシ

保存版

大岩3区で見られる  
春の草花たち

平成28年4月観察

作成 平成28年4月  
大岩3区文化部  
大岩3区まちづくりプロジェクト  
写真撮影・紙面 遠藤 彰



①コマツヨグサ

コマツヨグサの仲間は月見草とか待宵草と呼ばれ、夕方から早朝にかけて咲く。



②スズメノヤリ

大名行列で奴さんが持っていた「毛槍(けやり)」に似ているところから「スズメノヤリ」とついた。「スズメ」とは小さいことを表す。



③スズメノカタビラ

帷子(かたびら)とは裏地のない単(ひとえ)の着物のこと。小さい着物に見立てて名付けられたと考えられる。



④ムラサキケマン

紫が鮮やかな花だが、ケシ科の植物で強い毒性をもっている。



⑤キランソウ

「ジゴクノカマノフタ」という恐ろしい名までが付いているが、万病に効く薬草で地獄にふたをしてしまおうという意味。



⑥シラユキゲシ

山地の湿ったところに咲く。一茎に四弁の花を咲かせる。大きなハート型の葉が特徴。



⑦シャガ

中国原産。中国では、「射干(ヒオウギ)」と書くが、日本では「シャガ」と読んだ。



⑧ニョイスミレ

「ツボスミレ」とも言われる。全体的に小柄で花も高くないので、目立たずひっそりと咲いている。



⑨ムラサキサギゴケ

サギソウに似ているが、小さくて横に広がるので、「コケ」の名前が付いている。



⑩ニリンソウ

一本の茎から二輪ずつ花茎が伸びるが、まれに一輪や三輪が出ている。大岩堤の斜面に群生している。



⑪ジロポウエンゴサク

次郎坊とは、スミレを太郎坊と呼んだことに対する呼び方。ムラサキケマンと似ているが、葉の形で区別できる。



⑫ハハコグサ

春の七草の一つ(ゴギョウ)。かつては草餅に用いられていた。新芽が這うことから「這う子」と呼ばれていたのが、「ははこ」に変化した。



⑬クサイチゴ

キイチゴの仲間なのに、一見すると草のように見える所から名前が付いたらしい。大岩堤南西の林道に群生する。



⑭ハルジオン

「貧乏草」ともいわれる。ヒメジョオンと似ているが、4~5月頃に咲くのと、つぼみが下を向き、茎は中空であることで区別する。



⑮ミツバツチグ

黄色い五弁の花で、葉は楕円形の小葉が3枚からなり、縁には鋸歯がある。



⑯ジシバリ

タンポポに似ているが、花びらに見える舌状花の数が少ない。所々から根を伸ばし地面を縛るようだというところから名が付いた。



⑰カラスノエンドウ

果実が熟すと真っ黒になるところから、この名が付いた。茎にツルが巻き付いている。



⑱ウシハコベ

花びらは五弁だが、2裂しているため、10枚に見える。春の七草の「ハコベラ」とは種類が違う。大型なので、「ウシ」が付いた。



⑲ワスレナグサ

ドナウ川でこの花を恋人のために採ろうとして流されてしまった男性が別れ際に発した「私を忘れないで」という言葉が語源。



⑳スイバ

葉をかじると酸っぱい味がする。そこで、「酸(す)い葉」の名がある。利尿・健胃・整腸・皮膚病・かいせん等に効く生薬になる。



㉑ハナニラ

葉にはネギやニラのようなにおいがするところからこの名が付いた。繁殖力が旺盛で植えたままでも広がる。



㉒イトズイセン

スイセンの学名のナルシサスはギリシャ神話に由来する。イトズイセンは子安神社斜面で花を咲かせている。(下写真)



㉓タチツボスミレ

もっとも身近に見られるスミレで、丸い葉と立ち上がる茎が特徴。



㉔ヒメオドリコソウ

群生し、年間を通じて開花しているため、他の花が少ない時期にはミツバチにとっては、蜜の貴重な供給源となる。



㉕マツバウンラン

名前の由来は、葉が松の葉のように細く、花がウンランに似ているところから付けられた。道端や芝生で群生している。



㉖シロツメクサ

子どもが花の冠を編んで遊ぶ。江戸時代にオランダから輸入したガラス製品が割れないように乾燥させて摘んでいたことから「詰め草」と言われる。



㉗イヌガラシ

辛子をとる「カラシナ」に似て非なるものとして、「イヌ」がつく。水田の畦などやや湿ったところに生える。



㉘スズメノテッポウ

名前の由来は細い花穂を鉄砲にたとえ、小さいことから「スズメ」を付けたと考えられる。花茎を抜き取って笛にして遊ばれる。



㉙キツネノボタン

毒があるところから嫌がられるものとして「キツネ」が付けられ、葉が牡丹(ボタン)によく似ているところからこの名が付いた。



㉚レンゲ(ゲンゲ)

化学肥料が使われる前は水田の緑肥として蒔かれ、田植えの前に耕し、レンゲをそのまま鋤きこんで肥料とした。



㉛タガラシ

水田や用水路に生える有毒な植物。嘔吐と辛みがあることから「田辛子」として、この名が付いた。



㉜レンギョウ

「連翹」を音読みした。「連」は実が並んで付いていることを表す。解毒・消炎・利尿などの効能がある。



㉝クサノオウ

名前の由来は諸説ある。鎮痛・鎮静・皮膚病の薬効から薬草として優れているところから「草の王」という説。茎や葉から黄色い汁がでてくる所から「草の黄」とする説などがある。



㉞ハナダイコン

(シヨカツサイ) 諸葛孔明が食用として広めたという説から「諸葛菜(しょかつさい)」という別名がある。



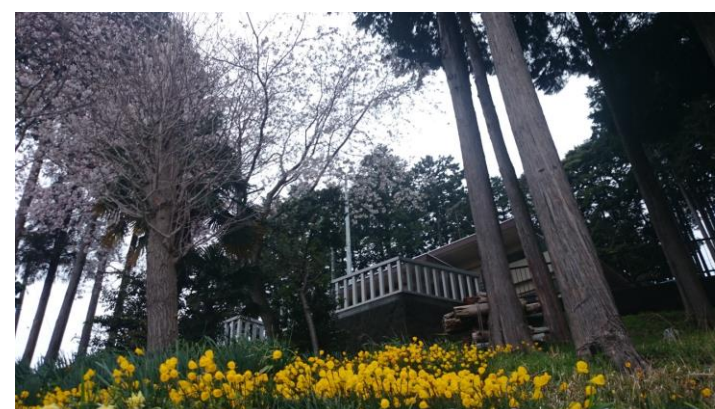
㉟ニガナ

茎や葉から白い汁が出て、苦みがある所からこの名が付いた。沖縄では食用とされている種類もある。



㊱セイヨウアブラナ

食用油の原料として知られている。セイヨウカラシナとよく似ているが、花や葉の付き方で区別できる。



4月の子安神社は桜とスイセンが競い合うように咲いています。毎週日曜の早朝にお掃除を続けてくださっている方々のお陰で、掃き清められた境内と花が地域のシンボルになっています。四季を通じて、ヒメヒオウギズイセン、キツネノカミソリ、ヒガンバナなどが目を楽ませてください。

本紙は、区民館広場入り口等、区内3カ所の古紙回収ステーションからの収益により作成・配布しました。御協力感謝します。  
「住んでよかった大岩に！」